

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

学校名【 豊橋市立南陽中学校 】

1 実践テーマ	【 V 】	スポーツに関する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成
2 実施対象者	全校生徒499名（18学級）	
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（ ） ② 行事名（南陽五輪（オリンピック）：体育祭） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）	
4 目標 (ねらい)	コロナ禍での「南陽五輪」の実施の意義と、その理念を再確認し、オリンピックの名にふさわしい活動にするため。「派遣プロジェクト」を活用することで、生徒がオリンピックをより身近に感じ、その理念に触れ、スポーツを通じた人間教育について理解を深める。	
5 取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・南陽五輪計画の見直し ・運営組織の改編 ・エンブレムの募集 ・オリンピックボランティアの募集 ・コロナ禍に対応した種目案の検討 ・オリンピック講演会の実施 <p>本校では、平成25年度より体育祭の名称を「南陽五輪」として、スポーツを通じた交流や成長の場として活動に取り組んでいる。</p> <p>実施にあたり、「組織委員会」を立ち上げ、運営に携わる教員・生徒による組織的な運営を行えるように計画を立てた。その中で、「実行委員」とともに行事を支える「オリンピックボランティア」の募集や、「南陽五輪エンブレム」の募集を行い、スポーツへの多様なかわり方について考える機会とした。「総務局」による種目検討では、コロナ禍に対応した種目を考えるとともに、運動の苦手な生徒でも楽しんで参加できる種目になるように話し合いを行った。</p>	



生徒の手によるエンブレムの作成



南陽五輪は、コロナ蔓延により2種目を第1部として学年別に行い、第2部として全校種目の長縄を全学年一斉に行った。開会式の中では、実行委員長から、開催の意義、五輪の名に込められた思いについての話があった。競技や応援の中で、多様な



国籍や成育歴をもつ生徒たちが、協力して取り組む様子が見られた。



南陽五輪の事前学習

(コロナ蔓延により事後へ変更)として、オリンピックによる講演会を行うことで、生徒がオリンピックをより身近に感じ、その理念に触れ、スポーツを通じた人間教育について理解を深めるようにした。

南陽五輪後の事後指導として、学級・学年の生徒との交流や、講演会を通じて学んだことをまとめることで、南陽五輪への思いを共有し、次年度の取り組みへとつなげていきたい。



失敗はためてはないということがわかりました。自分は11月中旬にあった昇段試験で全敗しました。そこから自信がなくなって落ちこんでいたけど「柔道」を作りました。やっぱり平岡先生が言っているように、過去の出来事の受け止め方を変えることによていいこともあるんだとわかりました。今回は本当にありがとうございました。

本当の失敗とは失敗に向き合わないこと。部活で今後卓球1つっていうのがいいんですが、平岡さんのお話を聞き、今後の自分に役立つような卓球1つにしたいと思いました。部活動でどんな失敗をしようか、過去はかえれない、事実がかえれない。でも実際はかえることができるのなら、そこであきらめず失敗に向き合いたいと感じました。忙しい中新しいいただきありがとうございました。

6 主な成果	<p>組織委員会（実行委員）は、コロナ禍に対応した種目づくり（変形長縄やボール送りリレー）を行い、工夫を重ねて、本番では全員が楽しむことのできる競技を行うことができた。テーマやエンブレム募集、オリンピックボランティア（ポスター作製）には、運動の苦手な生徒からも多くの応募があり、選手としての関わりだけではなく、南陽五輪を盛り上げるための活動に参加することができた。</p> <p>『南陽五輪』後の「ありがとうカード」には、学級の仲間への感謝の言葉がつつられていた。練習の中では、日本語がうまく話せない生徒にも、身振り手振りで意思疎通をしようとする姿や、互いの健闘をたたえ合う姿が見られた。</p> <p>また、延期のため南陽五輪後に行われた平岡先生の講演会では、振り返りに「失敗と向き合う大切さ」や「自分に向けられた批判的な言葉も、成功への原動力としてポジティブに受け止めること」などの記述が見られ、学んだことを今後の活動にいかそうとする意欲が見られた。</p>
7 実践において工夫した点（事業の特色）	<p>体育祭が「南陽五輪」という名称に改められた経緯や、その名称に込められた思いを継承できるよう、南陽中の歴史を伝えた。</p> <p>昨年度はコロナ禍により実施することができなかつたため、本年度の取り組みを通じて、改めて「活動の意義」や、「オリンピックの理念」を再確認し、スポーツが心身に与える影響や、言葉の壁を乗り越えて交流することの大切さを伝える場として設定した。</p>
8 主な課題等	<p>事業を終えて、学年の発達レベルに合わせた事前学習が必要だと感じた。道徳授業や、保健体育授業と連携して、オリンピックを題材とした教材を開発し、学年に応じた内容の事前学習を行うことで、3年間を通じてオリンピックの理念や歴史を学べるようにしたい。</p>
9 来年度以降の実施予定	<p>南陽五輪については、コロナ対応で行えなかつた式典などについて、柔軟に対応できる案を立てておきたい。また、南陽五輪後の学びの成果を共有できる機会をつくりたい。さらに、市内私立高校と連携し、「平和の火」（長崎原爆の火）の分火を実現し、オリンピズムを実感できる行事にしていきたい。</p> <p>オリンピック講演会について、人選や内容の検討から生徒の意見を取り入れて、主体的な学びの場になるようにしたい。</p>